

矢田・天王原遺跡2

— 鉄塔建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2011

高崎市教育委員会

例 言

- 1 本書は、群馬県高崎市吉井町矢田字大干原 641 番地 1 に所在する「矢田・土土原遺跡 2」（高崎市遺跡調査番号 507・シリーズ番号 第 288 集）の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、鉄塔建設に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施した。
- 3 発掘調査から整理作業を経て、報告書刊行に至るまでの一連の作業は、エヌ・ティ・ティ・ドコモ群馬支店の費用負担によって行われた。
- 4 発掘調査及び整理作業は、高崎市教育委員会の指導・監理のもと、有限会社 高澤考古学研究所が実施した。
- 5 調査体制は、以下の通りである。
高崎市教育委員会文化財保護課 田口 一郎・須田 奈保子・滝沢 匡
有限会社 高澤考古学研究所 澤田 福宏
- 6 発掘調査は、平成 23 年 5 月 10 日から平成 23 年 5 月 20 日までの期間で実施した。調査面積は 42.25㎡である。
- 7 本書の編集は、有限会社 高澤考古学研究所の澤田 福宏が行った。執筆は 1 を田口が、それ以外を澤田が行った。
- 8 基準・水準点測量及び遺構・遺物平面図測量は、田中 隆明・山際 哲章に委託した。
- 9 遺構及び遺物撮影は、澤田が行った。
- 10 発掘調査及び整理作業に従事した者は、以下の通りである。（敬称略、50 音順）
赤尾 高章・小林 貴子・澤田 美枝子・澤田 恵美・松井 昭光
- 11 発掘調査から報告書刊行に至るまでに、下記の機関に協力を蒙った。（敬称略、50 音順）
エヌ・ティ・ティ・ドコモ群馬支店、株式会社 協和エクシオ、山下工業 株式会社
- 12 発掘調査により得られた資料及び出土遺物は、一括して高崎市教育委員会に保管してある。

凡 例

- 1 遺構補図中に使用した方位記号は座標北を、水準線は標高を示す。座標は国家座標 JIS 系を使用した。
- 2 土層注記の色調は、農林省農林水産技術会議事務局（財）日本色彩研究所監修「標準土色帖」を使用した。
- 3 本書で使用した地図は、第 1 図が国土地理院発行数値地図 1/25,000 地形図を、第 2 図は国土地理院発行数値地図 1/2,500（高崎市都市計画基本図）を使用した。
- 4 掲載図の縮尺は、各図に示した通りである。
- 5 遺物実測図において、口縁部残存が 1/2 未満の遺物は、口縁部線を中心線から離して表現した。
- 6 遺物実測図の縮尺は、1/3 を基本とし、異なるものは各補図中に縮尺を記した。
- 7 本書で使用した火山噴出物の記述は以下の通りである。
As-BP …………… 約 2 万年前降下「浅間板状褐色軽石群」
As-YP …………… 約 1 万 3 千年前降下「浅間板状黄色軽石」

例言・凡例・目次

例言・凡例・目次

I 調査に至る経緯	1
II 調査の方法と経過	1
III 遺跡の地理及び歴史的環境と周辺遺跡	2
IV 基本堆積土層	5
V 調査の成果	6
VI 遺構外遺物	12
VII まとめ	12

挿図・表目次

挿図・表目次

第1図 周辺遺跡図 (1/25,000)	3
第2図 遺跡位置図 (1/2,500)	4
第3図 基本堆積柱状図	5
第4図 遺跡全体図 1号住居平面図 (1/50)	6
第5図 1号住居跡 遺物出土状況 平・断面図 (1/60)	7
第6図 1号住居跡 カマド前 遺物出土状況 平・断面図 (1/30)	7
第7図 1号住居跡 カマド 平・断面図 (1/30) 貯蔵穴 断面図 (1/30)	8
第8図 1号住居跡 掘り方 平・断面図 (1/60) カマド掘り方 断面図 (1/30)	8
第9図 1号住居跡 遺物図	9
第10図 1号住居跡 遺物図	10
第11図 遺構外遺物 遺物図	12
第1表 1号住居跡 遺物観察表	11
第2表 遺構外遺物 遺物観察表	12

写真図版

PL.1

表土除去状況	1号住居跡検出状況
1号住居跡Aセクション	1号住居跡Bセクション
1号住居Aセクション北側	1号住居カマドHセクション
1号住居炭化物検出状況	1号住居遺物出土状況アップ

PL.3

調査区全景	1号住居カマド全景
1号住居床面上 横物圧痕アップ	1号住居カマド全景 (復元)
1号住居床面上 横物圧痕及び炭化物範囲	

PL.5

遺物写真

PL.6

遺物写真

PL.2

1号住居遺物出土状況	1号住居カマド付近遺物出土状況
1号住居カマド遺物出土状況	1号住居No.21 出土状況
1号住居No.8・15・22 出土状況	1号住居No.14・20 出土状況
1号住居カマド遺物出土状況	1号住居No.6～12 出土状況
PL.4	
1号住居掘り方セクション	1号住居カマド掘り方Cセク
1号住居カマド掘り方Fセク	1号住居カマド掘り方全景
1号住居掘り方全景	作業風景
埋め戻し状況	埋め戻し後現況復旧状態

I 調査に至る経緯

平成22年8月、協和エクシオ株式会社より高崎市教育委員会（以下市教委）にエヌ・ティ・ティ・ドコモ株式会社（以下事業者）が計画する携帯電話用無線基地局予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。市教委は、当該地が古墳～中世に至る散布地として遺跡台帳・地図に登録された埋蔵文化財包蔵地であるため、工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年9月10日付けで、土地所有者の木村美佐江氏より試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は同年10月27日に工事予定地の試掘調査を実施し、古墳時代の竪穴遺構を確認した。

試掘結果を受けて、埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、建設予定の変更は不可能ということなので、文化財保護法第93条第1項の規定による届出に対する回答で、記録保存の発掘調査が必要であると指示を出した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、有限会社高澤考古学研究所に委託して実施することとなり、平成23年3月31日付けで高崎市長・事業者・高澤考古学研究所の三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成23年4月27日付けで事業者と高澤考古学研究所の二者で発掘調査委託契約が締結された。

II 調査の方法と経過

高崎市教育委員会による試掘調査の結果、遺構確認面までは現地表から約40cmであることが確認されている。まず重機を使用し、遺構確認面までの土を除去し、ジョレンを用い人力にて遺構確認作業を行った。遺構確認作業の結果、試掘調査の結果通り古墳時代の竪穴住居跡を1軒検出した。

検出された住居跡は、埋没状況を確認する為に十字状に土層確認ベルトを設定し、全て手作業にて掘り下げ作業を行った。また、出土遺物及び炭化材等が必要に応じて座標を与え、平面図・エレベーション図を作成し、写真記録を所得しながら調査を行った。写真は35mm小型一眼レフカメラを用い、カラーリバーサル、モノクロームネガの2種類のフィルムを使用し、1010万画素の小型一眼レフデジタルカメラを併用した。カマドについては、キの字状に土層確認ベルトを設定し掘り下げ作業を行った。すべての生活面の調査終了後、住居跡構築時の調査に移った。生活面での調査同様に十字状に土層確認ベルトを残し、床面を慎重に手作業にて剥ぎ取り、掘り方の確認作業を行った。カマドについても構築芯材及び構築上を手作業で取り除き、掘り方の確認作業を行った。また、掘り方調査と同時進行で調査区南東隅にて基本体積土層を確認する為、深掘りを行った。平面測量は各段階にて光波測距機を使用し作成した。各段階の調査が終了した後、高崎市教育委員会による終了確認を受け、重機を使用して埋め戻しを行い、発掘調査を終了した。

- 5月10日 安全対策、機材搬入、調査開始準備
- 5月11日 重機による表上除去作業
- 5月12日 遺構確認作業 竪穴住居跡を1軒検出
- 5月13日 竪穴住居跡掘り下げ開始
- 5月19日 遺物取り上げ作業 生活面での全景撮影 生活面の調査終了
- 5月20日 住居構築時の掘り方調査開始
- 5月21日 住居構築時の全景撮影 現地発掘調査作業終了 高崎市教育委員会による終了確認
- 5月23日 重機による埋め戻し作業、仮設トイレ汲み取り、現場撤収作業

Ⅲ 遺跡の地理及び歴史的環境と周辺遺跡

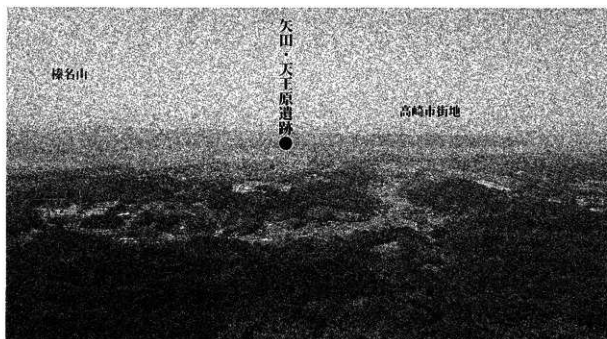
1. 遺跡の地理及び歴史的環境

群馬県高崎市は、関東平野の北西端に位置しており、西に浅間山、妙義山、北に広大な扇状地を持つ榛名山、赤城山、そして南西から南方にかけては御荷鉾山系、秩父山系等の山々に囲まれ、南東に広大な関東平野を望むことができる環境にある。

矢田・天王原遺跡は、上信越自動車道吉井インターの北東約350mにあり、北約2.8kmには長野県境に源を発する鏡川が流れている。この鏡川は、右岸に発達した2段の河岸段丘を形成しており、下位段丘は河床面より10～15mで、上位段丘は50～60mに及ぶ。本遺跡は、この上位段丘の南北にのびる台地上にあり、標高は150mである。

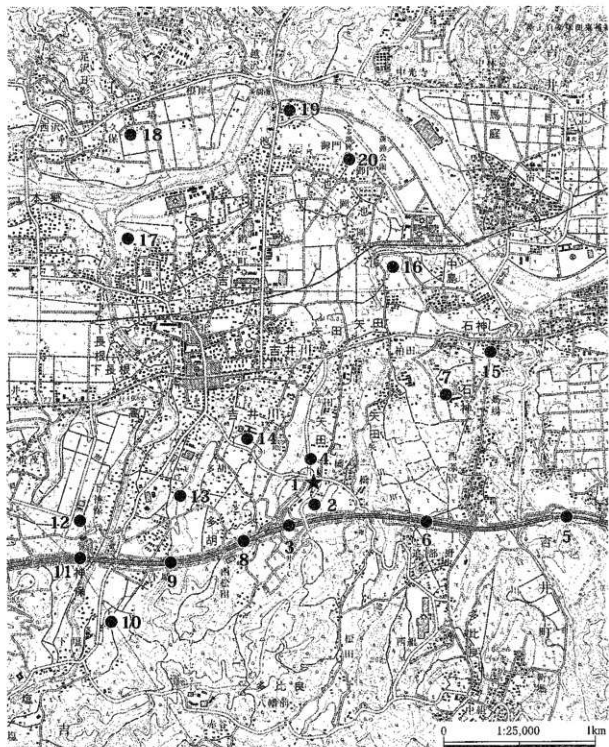
本遺跡周辺の上位段丘には、昭和61年から平成3年までの6年間に及び、吉井インターチェンジ建設に伴い約9万㎡が発掘調査された矢田遺跡があり、古墳時代から奈良・平安時代の竪穴住居跡が750件余り報告されている。また、インターチェンジと国道254号線のアクセス道路建設に伴い発掘調査された梅谷戸遺跡も報告されている。これら、2遺跡と本遺跡は近接しており、同一集落にある遺跡と考えられる。

下位段丘面においては、縄文から弥生時代の遺跡は希薄であるが、古墳時代後期になると群集墳が多く構築され、奈良・平安時代以降、それまで集落域の分布は上位段丘面が顕著であったが、徐々に下位段丘にも新たな集落が営まれ始め遺跡数も増加する。注目すべきは本遺跡から北東2.7kmにある「多胡碑」の存在である。市内の「山ノ上碑」、「金井沢碑」と併せて上野三碑として周知され、栃木県大田原市の「那須国造碑」、宮城県多賀城市の「多賀城碑」と併せて日本三占碑とされている。この地に新しく郡を増設した時の地方行政制度整備状況を物語る記念碑で、碑銘には、和制四年（711年）三月九日の年号が記されている。続日本記に建郡について「(中略)上野国(群馬県)甘楽郡の織養・韓敏・矢田・大家・緑野郡(藤岡)の武美、片岡郡の山の六郷を分けて新しく多胡郡を造った」と記されており、文献資料でも裏付けされる貴重な資料である。ここに記されている「矢田」は、本遺跡の遺跡名として用いられた字名である「矢田」として現在まで継承されてきたものと考えられ、今回の発掘調査で確認された住居跡は、矢田郷の基となった集落の1戸であった可能性が考えられる。



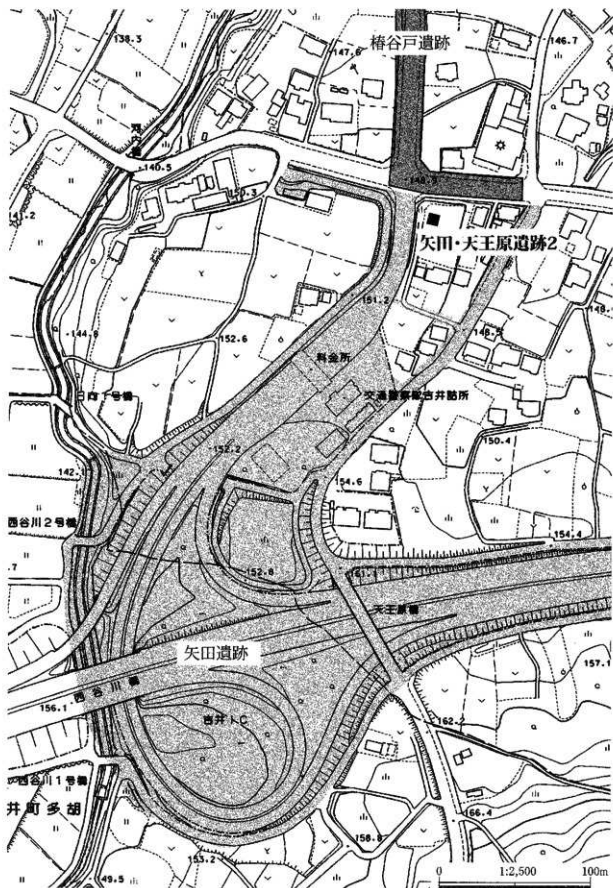
牛伏山からの遺景写真

2. 周辺遺跡



1. 本遺跡 2. 矢田天上原遺跡 3. 矢田遺跡 4. 椿谷戸遺跡 5. 黒熊中西遺跡 6. 多比良追部野遺跡
 7. 人野遺跡 8. 多胡蛇黒遺跡 9. 神保下篠遺跡 10. 壘古墳群 11. 神保納松遺跡 12. 神保古墳群
 13. 多胡古墳群 14. 川内遺跡 15. 石神祝神古墳群 16. 塚原古墳群 17. 北原古墳群 18. 馬場塚古墳
 19. 下池古墳群 20. 多胡碑

第1図 周辺遺跡図 (1/25,000)

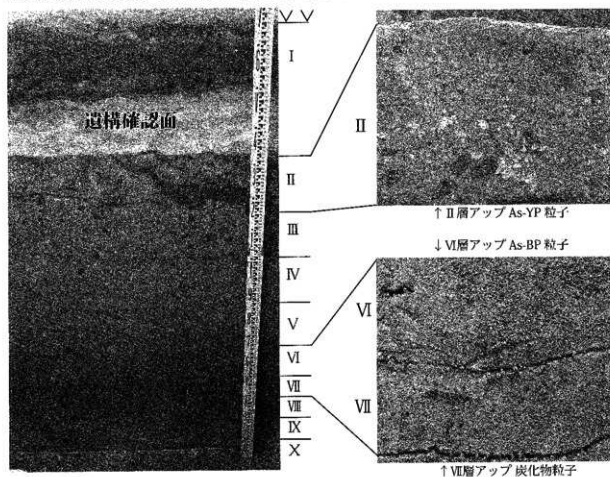


第2図 遺跡位置図 (1/2,500)

IV 基本堆積土層

本遺跡は、南から北に緩やかに傾斜する台地上にあり、各層とも共通して緩やかに北に傾斜している。現況は畑となっており平坦で、耕作土直下が関東ローム層となり、この面が遺構確認面である。

I層は耕作土で、平均して約20cm堆積している。現況が畑の為、粘性及び締まりは弱く、白色軽石を含む黒褐色土である。II層は明黄褐色土で、黄色軽石(As-YP)を多く含み、植物根による攪拌が多く認められる層である。III層は黄褐色土で締まりがあり、粘性がややある。1から3mm大の白色粒子を含む層である。IV層も黄褐色土でIII層とほぼ同じ堆積したが、白色粒子を含まず均一な堆積をしている。V層は褐色土で、やや砂質である。下層にある褐色軽石が攪拌し混入しているものと推測される。VI層は非常に硬く締まった褐色土で、褐色軽石(As-BP)が主体の層である。VII層は粘性の強い暗褐色土で、炭化物粒と黄色粒子を少量含む層である。VIII層も暗褐色土で粘性が強い。炭化物粒は無く、黄色粒子を少量含む層である。VII及びVIII層はいわゆる暗色帯に相当する層と考えられる。IX層は黄褐色土で粘性が非常に強く、黄色粒子を少量含む層で、X層も粘性が非常に強い灰白色土である。この層で湧水を確認した。地表からは1.5m下である。



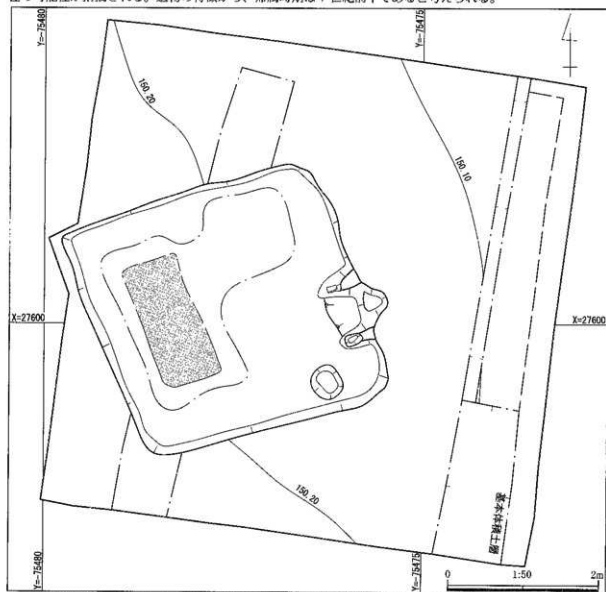
I層	黒褐色土 Hue10YR3/2	粘性・しまり弱 白色軽石を含む黒耕作土
II層	明黄褐色土 Hue10YR6/8	粘性弱・しまりややあり 黄色軽石(As-YP)を多く含み、植物根の攪拌多い
III層	黄褐色土 Hue10YR5/6	粘性ややあり・しまりあり 1~3mmの白色粒子を含む
IV層	黄褐色土 Hue10YR5/6	粘性ややあり・しまりあり 均一した堆積の層
V層	褐色土 Hue10YR4/5	粘性弱・しまりやや強 やや砂質、下層の褐色軽石を若干含む
VI層	褐色土 Hue10YR4/4	粘性弱・しまり強 褐色軽石(As-BP)が主体、植物根等による攪拌の為かブロック状に堆積
VII層	暗褐色土 Hue10YR3/4	粘性やや強・しまりあり 黄色粒子をやや多く含み、炭化物粒子を少量含む(暗色帯上層か)
VIII層	暗褐色土 Hue10YR3/3	粘性強・しまりあり VIII層と同様の黄色粒子を少量含む(暗色帯下層か)
IX層	黄褐色土 Hue10YR8/8	粘性強・しまりやや強 黄色粒子を少量含み、水分を多く含む
X層	灰白色土 Hue10YR8/2	粘性強・しまりやや強 粒子が細かく、水分を非常に多く含む 湧水あり

第3図 基本堆積柱状図 写真

V 調査の成果

1号住居跡

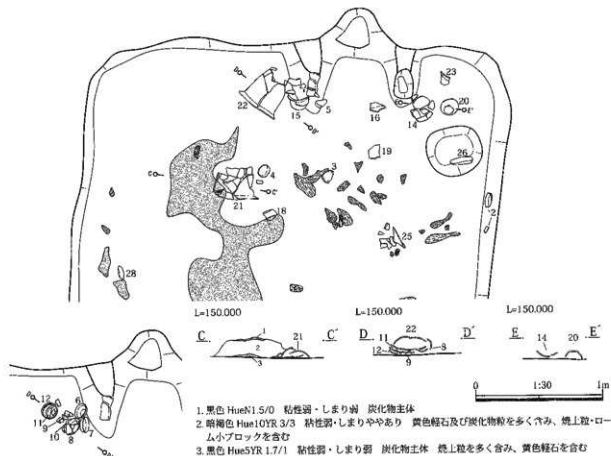
調査区中央にて検出された。規模は南北3.3m、東西3.45mで、平面形はやや歪んだ方形である。壁周溝及び柱穴は確認されなかった。南東端に貯蔵穴が検出されたが、床面から10cmと浅く本来の機能を果たしていたかは疑問が残る。カマドは東壁やや南寄りに位置し、煙道部は住居壁外に造り出され、燃焼部は住居内に設置されている。袖は粘土を混ぜた土で構築され、袖先には板状に加工された砂岩が芯材として使用されている。遺物は住居東側に多く出土し、特にカマド左袖前方では壘(21)・甔(22)がカマドから崩れ落ちたように口縁部を住居中央に向け出土した。また、甔の直下からは坏(6~12)が7点出土している。床は1~2cm程ロームを使用し張り床され硬くしまっている。掘り方は、カマド正面下及び北東部分が深く掘り下げられているが、住居内は比較的フラットである。掘り方においても柱穴及びそれに類するものは検出されなかった。本遺構は覆土に部分的に炭化材を多く含み、床面直上においても炭化材が散乱している為、焼失住居であると考えられる。また、床面にて植物が一部炭化した規則性のある圧痕が断片的であるが認められた。敷物等の存在の可能性が指摘される。遺物の特徴から、埋蔵時期は7世紀前半であると考えられる。



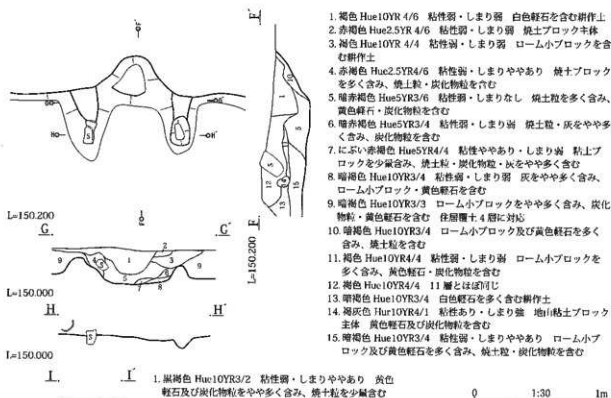
第4図 遺跡全体図 トーン部は植物圧痕範囲・破線の範囲は床面の炭化物が多い部分(1/50)



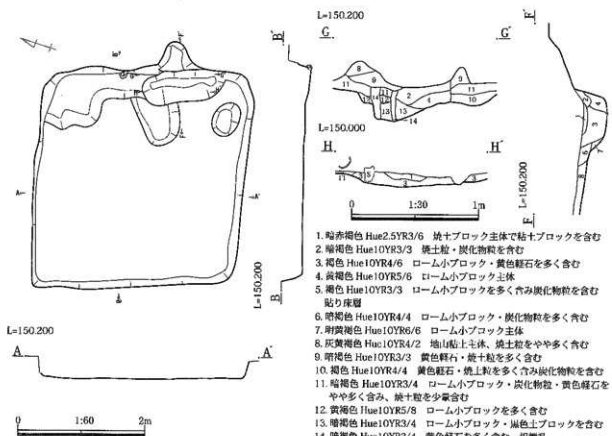
第5図 1号住居跡 遺物出土状況 平・断面図 トーンは炭化物範囲 (1/60)



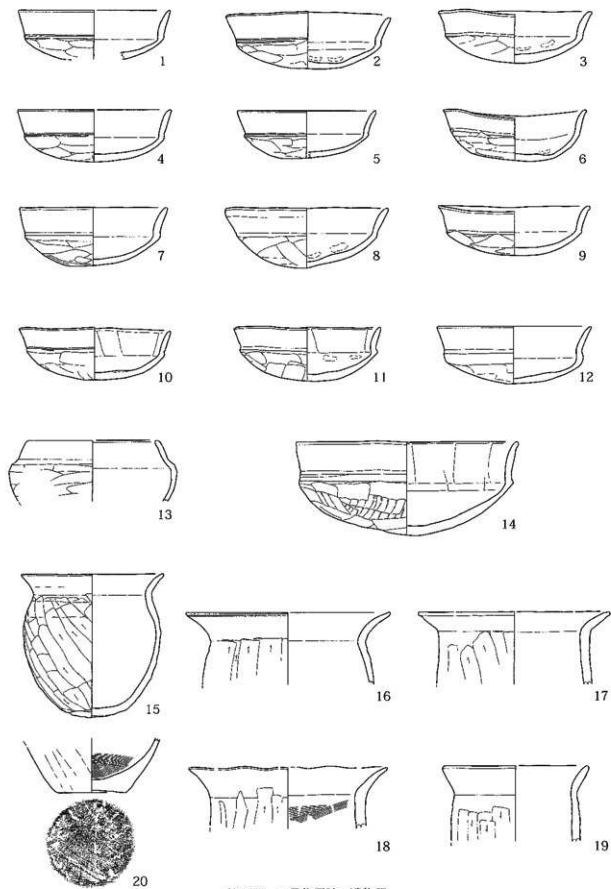
第6図 1号住居跡 カマダ前 遺物出土状況 平・断面図 トーンは炭化物範囲 (1/30)



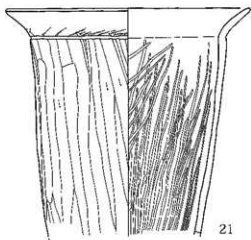
第7図 1号住居跡 カマド 平・断面図 貯蔵穴 断面図 (1/30)



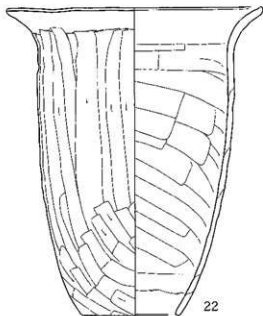
第8図 1号住居跡 掘り方 平・断面図 (1/60) カマド掘り方 断面図 (1/30)



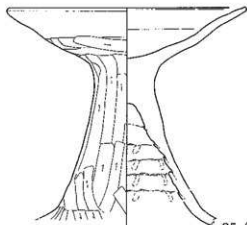
第9图 1号住居跡 遺物圖



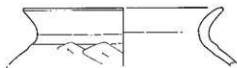
21



22



25 (1/3)



23



24



26



27



28

21·22·23·24·26~28 (1/4)

第10网 1号住居跡 遺物图

第1表 1号住居 遺物観察表

番号	種別 器種	口径cm・底径cm 器高(器台高)cm	成形・調整・文様等	胎土 色調・焼成	備考
1	土師器 杯	12.0・— (3.8)	外面：口縁部コナナデ 体部から底部へラ削り 内面：口縁部から体部コナナデ 底部ナデ	極細砂粒 褐色・やや軟質	口縁部下に沈みあり
2	土師器 杯	13.0・— 4.6	外面：口縁部コナナデ 体部から底部へラ削り 内面：口縁部から体部コナナデ 底部ナデ 指頭圧痕あり	極細砂粒 褐色・やや軟質	口縁部下2条の沈みあり
3	土師器 杯	12.0・— 4.1	外面：口縁部コナナデ 体部から底部へラ削り 内面：口縁部から体部コナナデ 底部ナデ 指頭圧痕あり	極細砂粒 褐色・やや軟質	内外面にススの付着あり
4	土師器 杯	12.2・— 4.1	外面：口縁部コナナデ 体部から底部へラ削り 内面：口縁部から体部コナナデ 底部ナデ	極細砂粒 にぶい褐色・良	口縁部下部分的に2条の沈みあり
5	土師器 杯	11.0・— (3.8)	外面：口縁部コナナデ 体部から底部へラ削り 内面：口縁部から体部コナナデ 底部ナデ	極細砂粒 褐色・やや軟質	口縁部下1条の沈みあり
6	土師器 杯	11.3・— 4.1	外面：口縁部コナナデ 体部から底部へラ削り 内面：口縁部から体部コナナデ 底部ナデ	極細砂粒 褐色・やや軟質	沈み顕著
7	土師器 杯	11.8・— 4.6	外面：口縁部コナナデ 体部から底部へラ削り 内面：口縁部から体部コナナデ 底部ナデ	極細砂粒 明赤褐色・良	
8	土師器 杯	12.8・— 4.8	外面：口縁部コナナデ 口唇部ナデ 体部から底部へラ削り 内面：口縁部から体部コナナデ 底部ナデ 指頭圧痕あり	極細砂粒 褐色・良	
9	土師器 杯	11.9・— 3.9	外面：口縁部コナナデ 体部から底部へラ削り 内面：口縁部から体部コナナデ 底部ナデ	極細砂粒 褐色・良	底面顕著
10	土師器 杯	12.0・— 4.2	外面：口縁部コナナデ 体部から底部へラ削り 内面：口縁部から体部コナナデ 底部ナデ 底面に粘土押し痕あり	極細砂粒 褐色・やや軟質	口縁部下1条の沈みあり
11	土師器 杯	11.6・— 4.3	外面：口縁部コナナデ 体部から底部へラ削り 内面：口縁部から体部コナナデ 底部ナデ 指頭圧痕あり	極細砂粒 明赤褐色・やや軟質	
12	土師器 杯	12.2・— 4.6	外面：口縁部コナナデ 体部から底部へラ削り 内面：口縁部から体部コナナデ 底部ナデ	極細砂粒 褐色・やや軟質	
13	土師器 小型壺	10.0・— (4.9)	外面：口縁部コナナデ 体部へラ削り 内面：口縁部から体部上端部コナナデ 体部ナデ	極細砂粒 黒褐色・良	
14	土師器 杯	17.6・— 7.5	外面：口縁部コナナデ 体部から底部へラ削り 内面：口縁部から体部2段の断部コナナデ 底部ナデ	極細砂粒 褐色・良	大型品 内外面にススの付着あり
15	土師器 壺	15.0・— 15.1	外面：口縁部コナナデ 体部斜め方向のヘラ削り 底部へラ削り後粘土増しあり 内面：口縁部コナナデ 体部から底部ナデ	粗砂粒・片岩粒 にぶい褐色・良	胎土に片岩を含む
16	土師器 壺	21.6・— (7.6)	外面：口縁部コナナデ 体部斜め方向のヘラ削り 口唇部に沈みあり 内面：口縁部コナナデ 体部ナデ	粗砂粒・片岩粒 褐色・良	胎土の片岩を含む
17	土師器 壺	20.2・— (7.6)	外面：口縁部コナナデ 口唇部をやつまみ出し気味 体部斜め方向のヘラ削り 内面：口縁部コナナデ 体部ナデ	粗砂粒・片岩粒 暗灰褐色・良	胎土の片岩を含む
18	土師器 壺	21.0・— (6.4)	外面：口縁部コナナデ 体部斜め方向のヘラ削り 内面：口縁部コナナデ 体部斜め方向のヘラ削り	粗砂粒・片岩粒・石膏 にぶい黄褐色・良	胎土の片岩を含む 念み顕著
19	土師器 壺	15.4・— (7.9)	外面：口縁部コナナデ 体部斜め方向のヘラ削り 内面：口縁部コナナデ 体部ナデ	粗砂粒・片岩粒 褐色・良	胎土の片岩を含む
20	土師器 壺	—・7.2 (5.8)	外面：斜め方向のヘラ削り後ナデ 底部へラ削り後ナデ (木炭痕あり) 内面：体部下ナデ 底部ハケナデ (明瞭に残る)	細砂粒 褐色・良	底部木炭痕あり
21	土師器 壺	21.2・— (6.1)	外面：口縁部コナナデ 体部斜め方向のヘラ削り 内面：口縁部コナナデ 体部ナデ	粗砂粒・片岩粒 明灰褐色・良	胎土の片岩を含む
22	土師器 壺	16.8・— (5.7)	外面：口縁部コナナデ 体部斜め方向のヘラ削り 内面：口縁部コナナデ 体部ナデ (一部刷毛モヤ残)	粗砂粒 灰黄褐色・良	口縁部短く直立気味
23	土師器 高杯	19.0・— (17.4)	外面：口縁部コナナデ 杯体部斜め方向のヘラ削り 杯体部下から脚部斜め方向のヘラ削り 杯体部斜め方向のヘラ削り 内面：口縁部コナナデ 体部から底部ナデ 脚部斜め復脚部 (指頭圧痕)	粗砂粒・片岩粒 褐色・良	胎土に片岩を含む
24	土師器 壺	23.9・— (24.1)	外面：口縁部コナナデ 体部斜め方向のヘラ削り 内面：口縁部コナナデ 体部ナデ後視方向の磨き 部分的に斜め方向のミガキ	細砂粒 にぶい黄褐色・良	内外面に磨面痕あり 黒斑・粗砂沈みあり
25	土師器 甗	27.0・10.0 32.5	外面：口縁部コナナデ 体部上から中位斜め方向のヘラ削り 下位は斜め方向のヘラ削り 内面：口縁部コナナデ 体部上段方向のヘラ削り 中位斜め方向のヘラ削り	粗砂粒・片岩粒 褐色・良	黒斑あり
26	石器 こもろみ石	重さ 740g	長さ：19.1cm 幅：5.7cm 厚さ：4.3cm 断面は扁平で板状	石材 片岩	
27	石器 こもろみ石	重さ 586g	長さ：16.8cm 幅：6.8cm 厚さ：3.0cm 断面は扁平で板状	石材 片岩	
28	石器 こもろみ石	重さ 233g	長さ：15.1cm 幅：5.7cm 厚さ：1.6cm 断面は薄く板状	石材 片岩	



表土除去状況 南から



1号住居検出状況 南西から



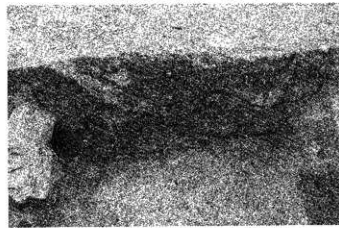
1号住居Aセクション 北東から



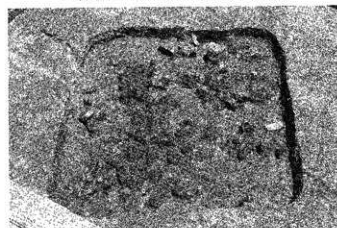
1号住居Bセクション 南から



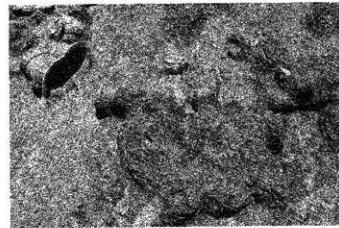
1号住居Bセクション(東)北側 東から



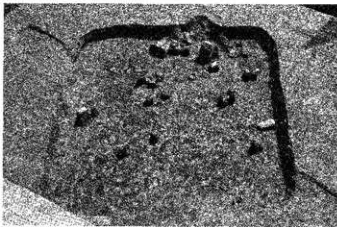
1号住居カマドHセクション 南西から



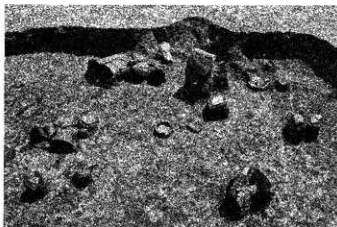
1号住居炭化物検出状況 南西から



1号住居遺物出土状況アップ 北から



1号住居遺物出土状況 南西から



1号住居カマド付近遺物出土状況 南西から



1号住居カマド遺物出土状況 南西から



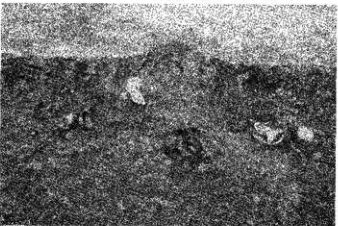
1号住居№21出土状況 南西から



1号住居№8・15・22出土状況 東から



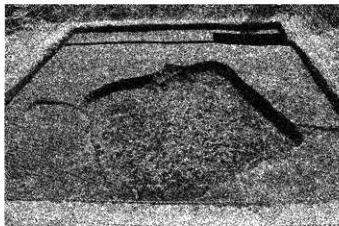
1号住居№14・20出土状況 南から



1号住居カマド遺物出土状況 南西から



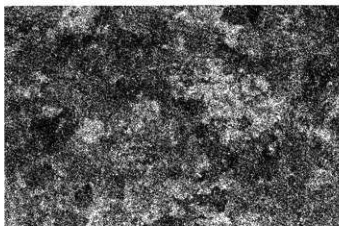
1号住居№6～12出土状況 北西から



調査区全景 西から



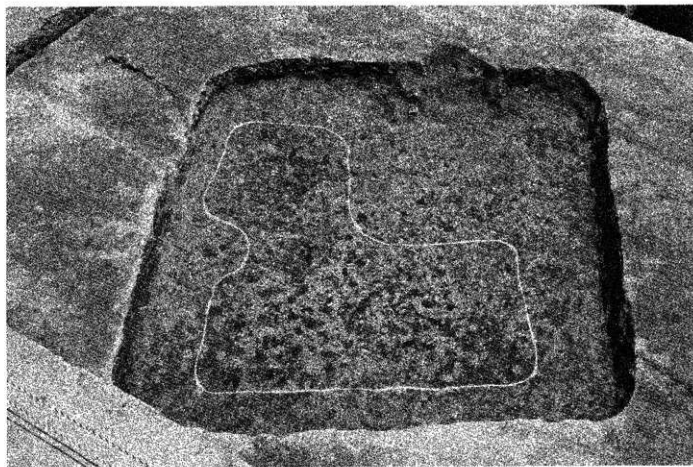
1号住居カマド全景 南西から



1号住居床面上 植物圧痕アップ



1号住居カマド全景(袖石復元状態) 南西から



1号住居床面上 植物圧痕及び炭化物範囲 南西から



1号住居掘り方Eセッション 南から



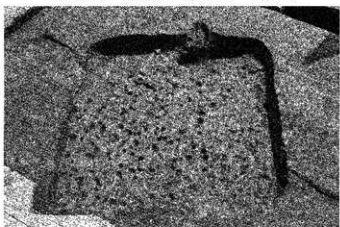
1号住居カマド掘り方Gセッション 南西から



1号住居カマド掘り方Fセッション 南東から



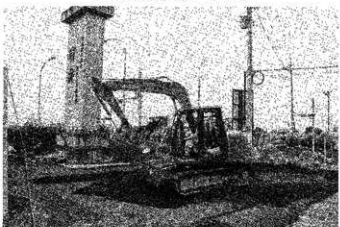
1号住居カマド掘り方全景 南西から



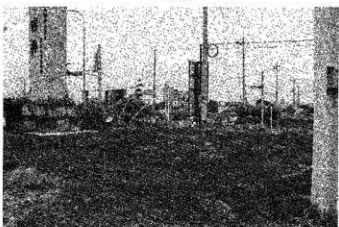
1号住居掘り方全景 南西から



作業風景



埋め戻し状況 南東から



埋め戻し後現況復旧状態 南東から



1



2



3



4



5



6



7



8



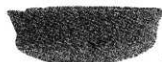
9



10



11



12



13



14



15



16



17



18



19



23



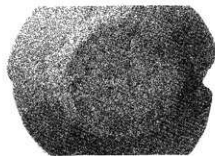
24



20



20 内面



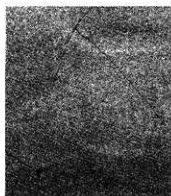
20 底面 (木炭痕)



21



21 内面



21 内面アップ



22



22 内面



22 内面アップ



25



26



27



28



29



30



31

参考文献

茂木 由行 1989『榑谷戸遺跡』吉井町文化財調査報告書 吉井町教育委員会
 群馬県史編さん委員会 1990『群馬県史 一通史編1 原始古代Ⅰ』群馬県
 田中 広明 1991『埼玉県考古学論集』設立10周年記念論文集「古墳時代後期の土師器生産と集落への供給」(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
 中沢 悟 1994『矢田遺跡Ⅴ』古墳時代住居編(2)(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第171集(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 石守 晃 1995『研究紀要12』「復元住居を用いた焼失実験の成果について」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 中沢 悟 1996『矢田遺跡Ⅵ』古墳時代住居編(3)(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第197集(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 中沢 悟・小林 昌二 1997『矢田遺跡Ⅶ』古墳時代住居編(4)(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第220集(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 高崎市市史編さん委員会 1999『新編 高崎市史 資料編1 原始古代Ⅰ』高崎市
 高崎市市史編さん委員会 2000『新編 高崎市史 資料編2 原始古代Ⅱ』高崎市
 矢島 浩 2007『矢田天王原遺跡』吉井町文化財調査報告書 吉井町教育委員会

報告書抄録

フリガナ	ヤタ・テンノウハラ イセキ ニ
書名	矢田・天王原遺跡2
副書名	鉄塔建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第288集
編著者名	有限会社 高澤考古学研究所 澤田 福宏
編集機関	高崎市教育委員会
編集機関住所	〒370-8501 群馬県高崎市高松町35番地1 電話 027-321-1111(代)
発行年月日	2011年8月31日

所収遺跡名	矢田・天王原遺跡2						
所収遺跡所在地	群馬県高崎市吉井町矢田字天王原641番地1						
市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査開始	調査終了	調査面積	調査原因
102020	507	36°14'45"	138°59'36"	20110510	20110520	42.25㎡	鉄塔建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
矢田・天王原遺跡2	集落	古墳時代	竪穴住居跡1軒	土師器	焼失家屋 床面に植物遺体痕あり

— 矢田・天王原遺跡 2 —

高崎市文化財調査報告書 第288集

平成23年8月25日 印刷

平成23年8月31日 発行

編集・発行 高崎市教育委員会

印刷・製本 朝日印刷工業株式会社